

令和7年度 学校評価書 (年度最終)

スローガン 「ホンモノの学びの実現」～誰かの喜ぶ顔が見たくて～ (自律力 協働力 実践力)

評価基準 A 目標を上回った B ほぼ目標通り C 目標を下回った

岡山県立津山商業高等学校

学校経営目標等	現状分析	今年度の達成基準	具体的計画	自己評価(中間)	自己評価(最終)	次年度に向けて	関係部署
重点目標							
1.どのように学ぶか							
○安全・安心な学校環境 ・誰一人取り残すことのない居場所がある学校の表現	他人と1対1で対峙する機会が少なく、友人や教師に対して思いやりや配慮に欠ける言動をすることがある。	年度末のアンケートで「多様な他者を尊重して行動できた」と回答する生徒が80%以上。	新人生研修等を通して高校生の生活やネットモラルに関して生徒自ら考えられるような取り組みを行う。	新人生研修や環境大会を通して新しい仲間づくりができ、自分だけでなく周りを育て行動することができた。	学校自己評価アンケートで「学校は、社会のルールやマナーが身につくように教育活動を行っている。」に、肯定的な回答した生徒が97%であった。他者の存在を認識している生徒は多いと思われる。今年度も、学校行事や学年集会の中で、他者との協働を促してきた。	他者とのコミュニケーションや人間関係がうまくいかない生徒もおり、ソーシャルスキルトレーニング等を積極的に活用する必要がある。	1年団
○安全・安心な学校環境 ・地域に働きかける防災訓練等	防災教室で防災意識は高まっていると思われ。しかし、緊要連絡にける生徒も垣見られる。	校内アンケートを用いて、防災意識が高まった割合が90%以上。	昨年度まで自助を重要として取り組んで。今年度は、災害発生後の対応を中心に取り組む。	消防署に防災訓練を依頼し10月22日の防災LHRに向けて具体的内容の打ち合わせをする予定である。	生徒用学校自己評価アンケート項目10「学校では、非常災害時に備えて、実際に役立つ防災訓練や避難訓練が行われている」で、肯定的意見の割合は95%であった。来年度も効果的に防災訓練・避難訓練を実施したい。	来年度は地理総合「自然環境と防災」の項目を2学期に前倒して地域の教育力を活用し防災意識を高めたい。	保健衛生課
○学び続ける力(学びの充実) ・「海陸の授業3(スルー)学習のかがり」の実行とスタディサプリを利活用した基礎学力の向上と家庭学習の習慣化	基礎的な計画ができない等、数学を苦手とする生徒が多い。	Dゾーンの生徒が年度当初より減少する。Bゾーン以上の生徒が年度当初より増加する。	スタサプで個人之力や検定対策などニーズに応じた課題配信を行う。	全英検に向けては個人の受験機に合わせた課題を出したり、実用英検受験者にはその対策課題を出すなど、ある一定のレベルでは個人之力やニーズに応じた課題を提供できた。音読もアプリを使って個人で練習、フィードバックが得られるようになり、学力向上につなげている。	2学期に実施した基礎力診断テストでDゾーンの生徒が1、2年ともに年度当初より約10%減少、Bゾーンも約10%増加している。全英検を一つの目標にして、アナログ・デジタル両面からの課題や補習等で指導した成果が現れたものと考え。	スタサプや音読アプリ等デジタル教材の活用面での生徒の二極化が懸念である。次年度は新たな英語学習アプリを導入予定で、授業・課題や検定対策との最適な連携、生徒の学習状況把握に基づく指導を強化していきたい。	英語科
○学び続ける力(学びの充実) ・「わか/か/津路 目指そう日本一」の取組	昨年の学習態度調査の結果、1日あたりの家庭学習時間の平均が40分未満である。	家庭学習時間調査における1日の平均家庭学習時間が1時間以上。	スタディサプリに組織的・計画的に取り組ませ、家庭学習時間の増加と基礎学力の向上を図る。	夏休みの影響もあってか、2学期始めの時点で学習時間はあまり伸びていない様子がうかがえる。日常の声かけをおこなひ、スタディサプリへの計画的な取り組みをさらに促していきたい。	2025年9月の調査で「1日あたりの学習時間」は平均35分であった。2024年4月は35分、2024年9月は37分であった。昨年より向上している。数値だけでなく、実態としても増えたい。	次年度は基礎力の改善を継続しつつ、日々の学習を習慣化させることができようようにしたい。	数学科
○学び続ける力(学びの充実) ・地域や企業等と協働してビジネスプランやビジネスモデルを作成し、各種ビジネスコンテストやコンペション等への主体的な挑戦	課題研究を中心に、ビジネスプランやビジネスモデルを作成し、各種ビジネスコンテストやコンペション等へ挑戦している。	課題研究を中心としたコンテストへの参加に加え、課題研究以外の科目においても、積極的なビジネスプランコンテストへの参加が増加する。	各種コンテストの開催状況や取り組み状況、指導方法等の情報を教員間で共有する。	商業科会議においては、各科目の取組状況を共有している。課題研究を中心に、さくらフェア、絵の描き、CMコンテスト、Webアプリコンテストなど、各種コンテストへ積極的に挑戦している。また、「商品開発」には「はるかなる」の開催と連携し、取組が、課題研究においてもCM制作、クラウド制作や地域連携などを通じて、地域や企業と連携した実践的な取組を実施する。	観光アイデアコンテストにおいて優秀賞、Webアプリコンテストにおいて佳良賞、「つやまの目」事業アプリコンテストにおいて最優秀賞を受賞するなど、各種コンテストへ積極的に挑戦し、具体的な成果を挙げることができた。	学習成果発表会の内容を見直し、校内外に向けて生徒の学習成果や活動の過程をより分かりやすく伝える形へと改善する。次年度は外部の機関を招いて発表の機会を増やしていき、生徒の取組を積極的に受け入れながら学びを深め、より質の高い発表・取組へとつなげていきたい。	商業科
○学び続ける力(学びの充実) ・「わか/か/津路 目指そう日本一」の取組	・生徒対象の学校自己評価アンケート「自分はあいつを積極的にしている」の質問項目において肯定的な回答が90%と増加している。 ・「社会のルールやマナーを守っている」の質問項目において肯定的な回答が90%と増加しているが、周りの人がやっているからなどの安易な考えによる行動が増えているように思っている。	・例年行っている生徒会、各種委員会、教員による校門でのあいさつ運動や交通指導を、学校生活を考える会や部活動を含め実施している。 ・「社会のルールやマナーを守っている」の質問項目において肯定的な回答が90%と増加している。 ・「社会のルールやマナーを守っている」の質問項目において肯定的な回答が90%と増加しているが、周りの人がやっているからなどの安易な考えによる行動が増えているように思っている。	・学校自己評価アンケート(中間)における肯定的な回答が、「自分はあいつを積極的にしている」が93%と増加しており、生徒会や交通委員会、風紀委員会と教員とで協力して毎朝実施しているあいさつ運動の効果があつて、昨年を上回っている。数値だけでなく、実態としても増えたい。 ・「社会のルールやマナーを守っている」の質問項目において肯定的な回答が90%と増加している。特に昨年多かった携帯・スマホの指導件数は減少しているが、そのほかの指導件数については同数値と比べて多くなっている。 ・インターネットに関する啓発活動を各学年に1回実施。そのうち1回は、委員会や学校生活を考える会主導で実施する。	・生徒対象の学校自己評価アンケート「自分はあいつを積極的にしている」の質問項目において肯定的な回答が90%と昨年より増加している。 ・「社会のルールやマナーを守っている」の質問項目において肯定的な回答が90%と昨年より増加している。 ・「社会のルールやマナーを守っている」の質問項目において肯定的な回答が90%と昨年より増加している。特に昨年多かった携帯・スマホの指導件数は減少しているが、そのほかの指導件数については同数値と比べて多くなっている。 ・インターネットに関する啓発活動を各学年に1回実施。そのうち1回は、委員会や学校生活を考える会主導で実施する。	・あいさつについては数値こそ微増ではあるが、毎朝のあいさつ運動の効果もあつて、あいさつをする生徒が増えたように思っている。あいつと自分との距離が縮まっているように思っている。 ・「社会のルールやマナーを守っている」の質問項目において肯定的な回答が90%と昨年より増加している。特に昨年多かった携帯・スマホの指導件数は減少しているが、そのほかの指導件数については同数値と比べて多くなっている。 ・インターネットに関する啓発活動を各学年に1回実施。そのうち1回は、委員会や学校生活を考える会主導で実施する。	・生徒指導課	
○地域との連携(連携強化) ・製作協議会、PTAや同窓会等と協働する津路モジュール	孫心井当宅配ボランティア活動を教員が先導して企画するのではなく、家庭クラブ(3年生)と共に社会福祉協議会に協働し、企画内容を生徒が主体的に決めていくような授業を行う必要がある。	孫心井当宅配ボランティア活動を教員が先導して企画するのではなく、家庭クラブ(3年生)と共に社会福祉協議会に協働し、企画内容を生徒が主体的に決めていくような授業を行う必要がある。	孫心井当宅配ボランティア活動を通して、地域の社会福祉協議会、民生委員の方や西高地区に在住の高齢者の方々と積極的なコミュニケーションを取り、親れ合ふこと、高齢者福祉に関心を持ち、思いやりの心を育み、豊かな完成を育成する。	孫心井当宅配ボランティア活動に向けて、2学期には高齢者の学習を予定している。授業を通して、高齢者福祉等、本活動の必要性を認識させていく。夏休みに孫心井当宅配ボランティア以外でも高齢者福祉等について関心を持たせられる授業を行ってほしい。	孫心井当宅配ボランティア活動の実施後の振り返り、肯定的回答は100%であった。生徒の感想では、体験を通して「人のために何かをすることは自分からできる」という意識が芽生えたと感じられた。一方で、実施は教員が先導して行った部分が多く、生徒が主体的に取り組める場面をもう少し増やしていくことが課題である。	教員が先導してはいるのではなく、家庭クラブ会長を中心に、生徒が実施に積極的になっていくようにしていきたい。また、家庭クラブを以て中心に活動して本行事に関わりようようにしていきたい。	家庭科
○地域との連携(連携強化) ・人材バンク等を活用した進路ガイダンスや地域の教材材	課題研究・津路モジュールをはじめとする商業科自らが企画して地域との連携を担った取り組みが数多くあるが、普通科においては地域連携が限られている状況である。	授業アンケートを実施しよく理解できた・学ぶようになったとの評価が70%以上と高い。	地域の観光ボランティアなどと連携し津山の地産地消・産地連携を推進し、心も育める。	地域連携の一環として、地域の街歩きを地産地消で行うことができた。また公共でも地域の課題から出発して地域連携を図るために、「行政がこれまで地域連携に実施してきたこと」を改めて検討し、地域連携の観点から、外部団体とのつながりを増やし、教師が説明するだけでなく、地域の当事者の意見なども生かして取り入れていくことが課題として考えられる。	地域連携では地域の街歩きだけでなく、防災の単元で津山消防署と連携し、実際に地域の消防士を体験したり、自分の命を守るための知識やスキルを学ぶ機会が得られた。また、地域連携の観点から、外部団体とのつながりを増やし、教師が説明するだけでなく、地域の当事者の意見なども生かして取り入れていくことが課題として考えられる。	1.授業に対し目標を明確にした授業づくりを心がけていくことで、その中で地域との連携が実現しやすくなるようにしていきたい。また、地域連携の観点から、外部団体とのつながりを増やし、教師が説明するだけでなく、地域の当事者の意見なども生かして取り入れていくことが課題として考えられる。	地理・公民科
○地域との連携(連携強化) ・人材バンク等を活用した進路ガイダンスや地域の教材材	企業訪問や企業ガイダンスの実施により、生徒の地元企業への理解が深まっている。また、定期的な進路ガイダンスにより計画的に進路意識を高めることができている。	「進路のひき」にある目標や計画を整理しながら、3年間を見通して進路意識を高めている。の問いに対する肯定的な回答が85%以上。	企業訪問・企業ガイダンス・インターンシップを充実させ、地元企業とのつながりをより強固なものにする。また、進路のひきへの活用場面を増やし、3年間の見通しを立てていく。	各種進路行事を通して、進路意識を高める体制づくりに努めている。各学年各学期の進路目標については、学年間の予定できちょうに達成した。また、早い段階から自主的な活動に取り組む生徒も増えつつある。現在は進路行事の意義や目的などをより明確化し、段階的に進路意識を高められるようになっている。	学期末の段階で大学訪問や企業訪問、進路ガイダンスへの参加により進路意識を段階的に高める生徒が増えてきた。3年生の体験課を聞くことで自分の進路について真剣に考えたり、情報収集しやすくなる姿勢も見られ、よい傾向であると考えられている。	より効果的かつ効率的な指導になるよう、ガイダンスの内容や実施形態については今後も検討を重ねていく。	進路指導課
○地域との連携(連携強化) ・人材バンク等を活用した進路ガイダンスや地域の教材材	昨年度の学校自己評価アンケート「学校は、地域の組織・人材と連携したり、他者と協働する教育活動を行っている」項目で肯定的な回答が94%である。	問アンケート問項目で、「そう思う」が95%以上。	総合的な探究の時間において、地域の組織と交流したり、地域の人材から講話を聴いたりすることによって、今後は、地域が抱えている課題について考えられる機会を積極的に取り入れる。	学校自己評価アンケート(S13)で肯定的な評価は98%(全体98%)となっており、1学期は真庭市・津山市阿波・西栗倉村・製作市古市町。夏休みは地産地消・産地連携について話し合ってきた。今後はこれらに基づき地域の課題や将来の目標について考えさせていきたい。	学校自己評価アンケートS13「学校は、津路モジュールや総合的な探究の時間を通して地域と連携した活動の機会を得ている」で「そう思う」が61%、「だいたいそう思う」が36%だった。	総合的な探究の時間や津路モジュール、進路ガイダンス等の取組が生徒と地域をつなぐ良い機会となっている。来年度の基礎研究につながるようしていきたい。	2年団

学校経営目標等	現状分析	今年度の達成基準	具体的計画	自己評価(中間)	自己評価(最終)	本年度に向けて	関係部署
重点目標							
2 生徒をどのように支援するか(どのような配慮が必要か)							
・授業研究の実践(ICT活用・ワークル)教育・個別最適な学び・協働的な学びの取り入れ)	自分の考えを他人に話したり、文章にまとめて表現しやすくなるのが苦手である。分量について深く書くことができるが、前置きを立てて構理的に述べることは苦手である。	最終的に実施される小論文模試において80点以上をとる生徒が2年生が5人以上、3年生が5人以上。(昨年比は0名)	各学年において、ワープロやタブレット教材等を活用して、表現力・思考力を発展させる基礎的な技術指導を反復して行い、論理的文章表現でのワープロ活用を用いて表現力の定着・向上を図っている。	「現代の国語」(1年)、「論理国語」(2・3年)を中心に論理的な文章を書くための学習活動をシラバスの計画にて実施している。また、「国語文法」(1年)、「学習国語」(2・3年)において前所述的な教科書運動させた授業展開や共通のワープロ活用を用いて表現力の定着・向上を図っている。	小論文模試(第一学習社)において、80点以上を得点した生徒は少なく、目標は達成できなかった。しかし国語として、表現(書く)活動や小論文対決に重点を置き授業を進めてきた結果は直前に現れている。	今年度の取組を今後継続し、自分の意見を現代社会の話題でもまねが構理的に述べられる力を養成していきたい。	国語科
・自己管理能力の育成(キャリア・パスポートやデジタルスキル等)の活用)	自らの時間を余裕を持って行動し、目標達成のために努力することが苦手である。	自分自身で目標設定をし、自分の行動を振り返ることができるようになる。	進路の選択・決定に向け、校内出願手続きの期限や受験日を遵守することを通してスケジュール管理を育成。進路に関する行事や期限、受験日等を意識させる。	学校自己評価アンケートS9項目で、「そう思う」が4.8.6%となった。生徒の様子についても、面接練習などの進路の予定を手帳に書き込む姿が見られた。	アンケートの数値は4.5%以上であったので「自」と評価できるが、進路関係の事務(手帳のメチ、面接練習予定等)以外に、手帳を活用する場面がなかった。また、進路以外の校内の雑手帳書きや申込書など、担当の先に迷宮をかけてしまうことがあった。	「いつもちろしく、すぐには聞かず、繰り返し見直しを徹底させるためには、まず手帳を学校に毎日持ってくることを定着させる必要がある。毎朝、手帳を机の上に出しておくことを習慣化させたい。	学年向上
・主体的な成長(生徒の企画・運営による安全・安心な学校行事や委員会活動)	各種繰り返りのツールが個々に存在し、繰り返しの意識や自己の成長を認識しづらい。	学校評価項目(生徒)「キャリア・パスポート」に関する項目の肯定的回答が70%以上。	年間の目標設定と学期ごとの取り組みを両立し、自己成長を促す。最終的に自己PRや志望理由書に反映させることの重要性を示すことにより、キャリア・パスポートの活用を進捗意識の高揚につなげる。	中間期において「キャリア・パスポート」に関する肯定的回答が少なかつたことと重複し、学年間でも進捗を認め、各学年行事のタイミングで積極的な活用を促す。デジタル化も含め、効果的かつ効率的な運営に向けて検討していく。	生徒も教員も記入するタイミングでしか情報を確認できていないという現状がある。キャリア・パスポートの意識や活用について、今後確認する場面が必要であると考えている。次年度はデジタル化を導入する予定である。	デジタル化・情報の一元化に向けて準備を進めている。デジタルとアナログの両面を認め、より効果的な方法を検討していく。	進路指導課
・特別支援教育やいじめ防止推進に関わる取組	自身の健康に對して、対人がその健康の害に気づかずにいる生徒が見られる。主体的に自身の健康について考え行動できる力を育てる必要がある。	文化祭の展示を保健委員会として行い、啓発活動を行うことができている。興味を感じて展示会場への入場する生徒が50人以上。	保健委員会として、自分たちで展示の内容を決定し、文化祭で調査・企画・実施・検証する。	9月10日現在、自衛祭文化の部に向けて、心を癒すフリームの製作に熱意を注ぎ込んでいる。	保健委員会は保健隊よりの発行、約款防止の呼びかけ、健康診断の補助、教職の検定測定など日常生活を支える活動に加え、熱中症対策講座を実施したり水分補給を呼びかけるなど積極的な活動できた。自衛祭文化の部において作製した心を癒す水筒展示には81名が来場し、盛況であった。	来年度は新型コロナウイルス感染症や暑熱対策、インフルエンザ感染などの予防活動に努めていきたい。	保健学生課
・学年主任会や職員会議等での全職員の間際体制と情報共有	比較的幼少期に診断を受けた生徒の入学が漸増し、合理的配慮を求めるケースが増加しているが、特性理解や具体的な支援方法について教師が学ぶ機会がまだ少ない。	生徒の抱える課題や具体的な支援情報や教員間にも共有される。学年間会議での「支援を要する生徒」の情報や教育関係にも共有し、早期な支援につながるようにする。	令和5年度入学から開始した配慮事項や生徒情報データの継続的な更新・活用を促す。個別対応が必要な場合はニーズに対応した支援を行う。	1年生については中学期から引き継いだ支援計画と中高連絡会での情報入力を進めていた。1学期末には全学年対象で「支援を要する生徒」の情報入力を任に依頼し情報収集を行った。	次年度への引き継ぎとして最終的な情報のまとめを担任へ依頼して生徒情報シートへ入力していただく予定。公開しているSCやSSWとの連携強化については担当がまとめる予定である。	生徒情報シートへのより合理的な活用と、個別の支援が必要な生徒の理解、対応をチームで行う方法について検証する必要性がある。	保健学生課
・実施するために何が必要か(指導体制の充実、必要な支援、家庭・地域との連携・協力)	【R6学校自己評価より】 ○連絡に遅延させよかつた・・・9.7% ○学校生活が充実しており満足している・・・9.4%(生徒) ○学校は、オンラインスクール・ホームページを活用して、積極的な学校PRを行っている・・・9.5%(生徒)、9.6%(保護者) ○R6年度中学卒業生の進学希望者数(1次進路)は定員160名に対し、216名(1.35倍)であった。(調査年度12月)	本校への入学志願者数が募集定員の1.1倍以上である。	・中学校の進路指導や中学生が求める進路情報を的確に把握し、ニーズに応じた広報活動を行う。 ・新入生だけでなく、2・3年生にも入学前のイメージと在学中の実感のギャップを埋め合わせるを行い、さまざまな学びの機会を創出し、さまざまな取組を行う。 ・本校の在校生の学校生活の実感が、最大の広報活動である。学習向上委員会と連携して、授業改善に必要な環境整備の面で強力にバックアップを行い、 ・商業科以外の学科に対しては、教科「情報」、プログラミング教育、1人1台端末を駆使して、情報リテラシー教育で学びの魅力を高める。情報ビジネス科では、他学科とともに研究に取り掛かる。	・学校自己評価アンケート(中間)における、「人権及び命の大切さを考える機会がある」という質問項目において、肯定的回答が96%と高くなっている。 ・11月に命を考えるLHR、12月には人権LHRとしてヤングクアラールについての講座を実施する予定である。 ・人権(いじめ)調査アンケートを1学期に1回実施している。	・生徒対象の学校自己評価アンケート「人権及び命の大切さを考える機会がある」という質問項目において、肯定的回答が96%と高くなっている。生徒・保護者ともに昨年を上回る結果となったが、内容によっては保護者の方にも参加していただけたように思う。 ・人権(いじめ)調査アンケートについては、これまで2回実施している。3学期は1・2年生のみを対象とはするが、1回実施する予定である。	・命を考えるLHR、人権LHRについては既に2年生を対象として3年度も実施している。内容を検討する必要がある。また、今年度はできなかったが、内容によっては保護者の方にも参加していただけたよう計画したい。	教務課
・A-M-A活動、特別活動、進路E-Aの自備(17科目)教育(ワークル評価の確立)	校内の諸活動や地域との連携行事において、主体的・消極的である。	年度末のアンケートで「行事に積極的に参加することができた」と回答する生徒が80%以上。	日常の学びを実践する場として学校行事や加わることができた」と回答する生徒が一人一役を担わせる。	今後は、進路説明会や校際交流会などの機会を捉えた効果的な広報活動やInstagramを生徒主体で発信できるよう仕組みづくりに加え、授業改善につながるICT環境の整備や新しい学習ツール(生成AI等)の導入で学習環境の向上にも継続して取り組むたい。	2学期の振り返りでは「学校行事では自分の役割を責任をもって果たすことができていた」「学校行事で自分の役割ももちえ、もちえがよりよくなるよう自分ができることを考え、主体的に行動することができていた」という項目に80%以上が肯定的な回答であった。学校行事へ取り組む意識も高く積極的な参加の場面が多く見られた。	今年度継続したことを来年度にも生かし、来年度は学校の中心として学校行事さらに盛り上げていきたい。	1年間